

第3回学校運営協議会（中村小部会）議事録

日 時 令和8年2月12日(木)10:00～11:20

場 所 中井町立中村小学校

出席者 学校運営協議会委員、学校長、教頭、根岸

1 教頭より

本日のながれについて説明

2 校舎内見学

児童の学習の様子などを参観

3 学校長挨拶

令和7年度 中村小学校の学校教育活動について

- ・教育環境(自然豊か 四季を感じる)に恵まれていること
- ・教育目標につながる合言葉「かがやく自分 つながる仲間」
- ・子どもたちの輝く場面・つながる場面を紹介
(協働的な学習 読書推進 学力向上プロジェクトなど)
- ・各学年の校外学習などを紹介(地域とのつながる学び)
- ・めざす学校の姿「教師とともにある学校づくり」
- ・めざす教師の姿「誠実さ 情熱 指導力」

4 協 議

令和7年度 学校の教育活動に関するアンケートについて

アンケート結果と分析 今後に向けての改善策 等

知(確かな学び)・徳(豊かな心)・体(健やかな体)

○学校目標、合言葉について(学校全体)

保護者からの認知は上がっている。

○授業力向上(学習意欲)について

知 「保護者(あなた)は学習意欲が高まるようサポートしているか」自己評価低め。

「高まるように…」という問いかけ→自己評価厳しくなりがち。

子どもに寄り添い、主体的に学ぶ姿を作り出していきたい。また、家庭と共に協力して子どもたちを支えていきたい。

○いじめなど問題行動への組織対応について

徳 いじめ等の問題行動について「相手の気持ちを考えて行動している」児童の肯定率は高め。

今後も相手の気持ちを考えた行動を促す指導を継続していきたい。また、数値に表れないものもあると思うので、数値に甘えることなく気を引き締めていきたい。

○適正な評価について

知 「保護者は子どもの思いを受け止め、努力や成長を認めようとしているか」肯定率99%

○学校生活の工夫改善について

徳 学校生活の工夫改善等が高い数値、よい方向に繋がっている。

児童の頑張りを認め、褒める機会を意図的に増やし、充足感を持たせていきたい。

○開かれた学校について

知 教師「教育的情報を積極的に伝えている」100%

保護者「教育的活動の情報を得ようと心がけている」96%

児童「学校の様子等を自分から話している」76%

児童の肯定率は高いとは言えない。「自分から…」という設問であり、高学年になってくるとなかなか話をしなくなる傾向あり。その点が数値に表れているか。説明学習以外の取り組みもしていきたい。

○地域とともにある学校について

知「地域と関わろうとしている」児童 85% 保護者 86% 昨年とほとんど変わりなし。

もっと上がっても良いのではないかと考える。人との関わりをもっと進めていきたい。

地域の関わりを大切に、地域学びの充実に努めていきたい。

○あいさつについて

徳 肯定率児童 84% 地域の人にあいさつができるようになってきている。保護者が児童の手本になっている。学校、家庭、地域全体で気持ちの良い挨拶を目指していきたい。

○異学年交流・教育活動の工夫について

徳 肯定率児童 83%上級生が下級生に対して、思いやりをもって接することができている。

「掃除は楽しい」も入った問いに対してやや低め。異学年で協働する場面を意図的に増やし、多様性を認めながら人間関係を築けるようにしていきたい。

○読書推進について

徳 毎年やや低い結果。家庭での取り組みに期待したい気持ちがあるが、各家庭の事情もあり、難しさがある。学校での読書を推進する取り組みを引き続き企画し、充実を図ってきたい。

○学校安全について

体 肯定率高く、安心するところではあるが、100%を目指していきたい。

児童会から「廊下歩行について」発信できた。今度も継続・定着を図ってきたい。

○健康・体力づくりについて

体 児童「運動を頑張っている」83% 取り組みを学校もさらに進めたい。

○食育について

体 食育「私は栄養バランスを考えて楽しく食べている」に対して、児童は正直に答えている。今年度、「交流給食」（異学年）を計画、実施した。楽しく会食しながら、食に対する意識を高めていきたい。学校給食センターとの連携、委員会活動とのコラボ企画も検討していきたい。

<委員から>

- ・子ども会、母親クラブ、婦人会が無くなり、自治会も抜けていく現状。地域の関わりが無くなってしまっている。交流も難しい。
- ・子どもが外で遊ぶ姿を見なくなった。声が聞こえなくなった。地域との関わりが希薄になってしまった状況をどのように改善したらよいか。
- ・子供が減っていることは事実。現実問題として子供が少ない。ただ下校時に挨拶してくれた子がいて嬉しかった。
- ・地域の中に素晴らしい人、社会に貢献している人がいる。きっかけとして大人たちがまず積極的に関わっていかねばいけない。雰囲気づくりを学校にお願いしてばかりではいけないが、実

際はそのほうが早い。それは地域力向上、人間力向上につながる。

- ・スクールコーディネーターは、教員からの依頼を受けて活動を支えてくださる地域の方を探す形。中村小の先生は相談に来ることが多い。教員以外の人に教わることは大切だと感じている。
- ・人と人のつながりで探し、お願いしている。先生方の思いはあるが、忙しい。地域の方の中で小学校と関わってよいと考えている方、力を持っている方、経験豊かな方がいられると思う。町と協力していければ、町の全体の向上にも繋がっていく。
- ・人と人とのコミュニケーションがあらゆるものにつながっているのではないか。会話が少ない等も解消していける。
- ・個人の方ではつながりを広げていくことは、なかなか難しい。組織で動かすことが大事。教育委員会などを通して進めていくことも大いに力になる。
- ・ブックピクニックを3/1(日)に計画している。太陽の下で読書を楽しむ読み聞かせ(無料)。
- ・生涯学習課で取り組んでいるものも、教育課も活動しているものもある。今後併せてみるのはいかがでしょうか。
- ・学校応援隊が木の伐採、除草作業を行ってくださっている。需要がある。もっと踏み込んで活動したいと考えている。
- ・地域の人材も高齢化が進んでいる現状。引き継ぎ、新たな人材を発掘していくことが大切。広報でもお知らせしている。ネットワークで繋がっていくことが長く続いていくことになる。

<質疑応答>

- ◇授業力向上と学力向上について、学校はどのように捉えているのか。また、学力について現状はどうか。

中井町の子どもたちの学力はどうか実情を知り、学力向上、めざすべきところがゴール。

授業力向上とは確かな力をつけるための手立て。日々の教材開発含め、私たちの努力点を確かめる。目に見える学力と土台となる目に見えない学力がある。本校で設定している4つの力を意識しながら取り組んでいる。総合的に取り組んでいるところ。授業力向上と学力向上はイコールではない。

目に見える評価の一つとして、全国学力・学習状況調査の結果を客観的に見ていくことも大事にしていかなければならない。分析するだけでなく、何が強みで、何ができるかを考え、新しく取り組むべきものを考えている。分析会から、読書を推進するために、また他の学力を高めるために、いろいろな角度から教職員が考え、取り組んでいる。

令和8年度の中村小学校グランドデザインに基に、各グループで重点目標を掲げ、様々な取り組みを行ってきた。子どもたちの実態や課題に沿ったものを新しく提案していく中で、他グループと意見交換をしたり、再考したりしながら活動を進めてきた。年度末に教育活動を振り返る場を設け、来年度に向けて継続、改善を図っていきたい。

5 その他

2月、3月の中村小の今後の予定を紹介

6 連絡

第4回 学校運営協議会について

令和8年3月16日(月) 18:00~19:30を予定

場所 中井町農村環境改善センター